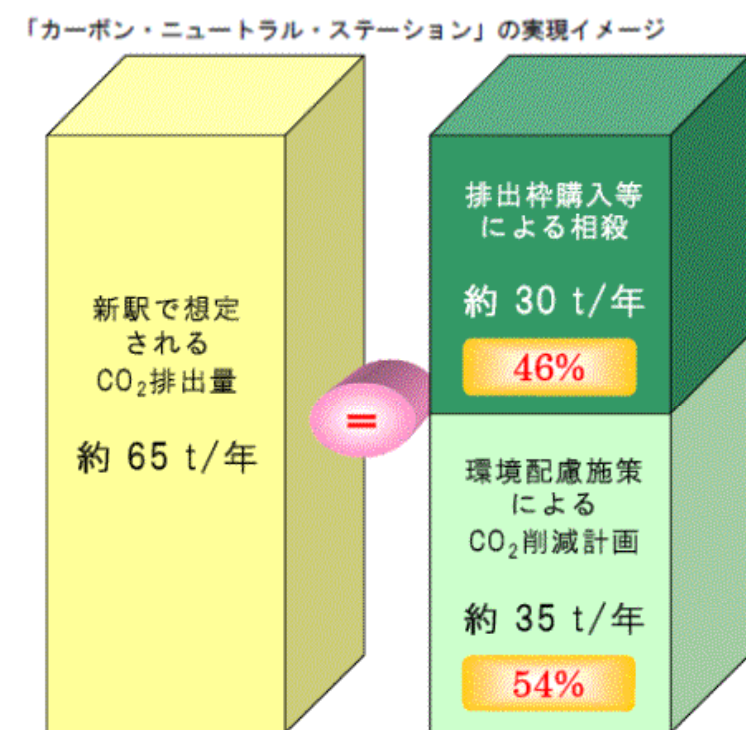


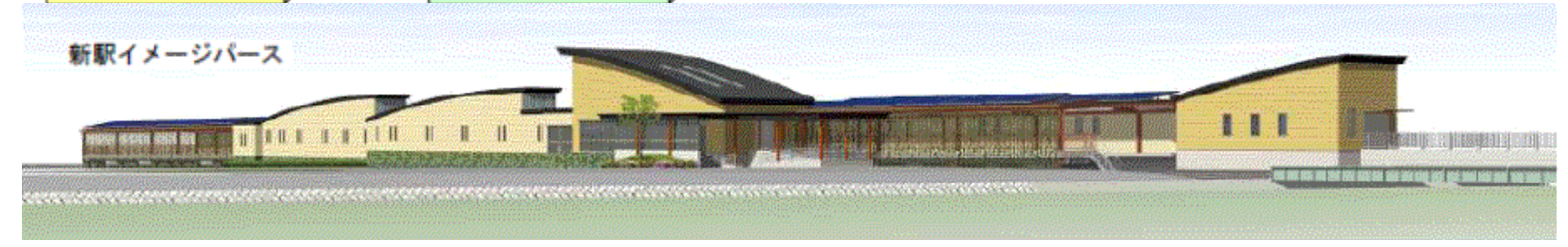
# 日本初のカーボンニュートラルステーションって何？ 旧総合福祉会館 解体撤去工事について



阪急電鉄が打ち出している日本初のカーボンニュートラルステーション摂津市駅は今、全国から注目されています。

「カーボンニュートラル」とは？  
市民の日常生活、企業の事業活動といった排出活動から温室効果ガスの排出量と、当該市民、企業が他の場所で実現した排出削減、吸収量がイコールであることの状態をカーボンニュートラル（炭素中立）という。  
（環境省「我が国におけるカーボンオフセットのあり方について（指針）」）

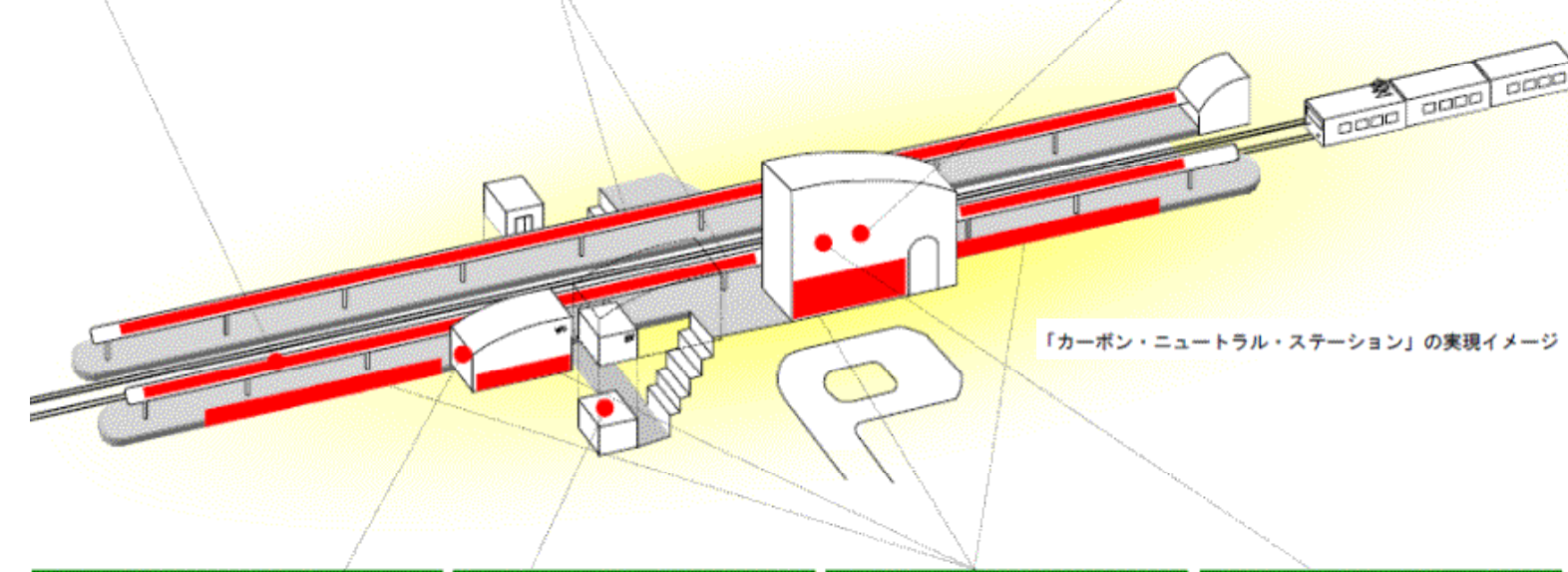
阪急電鉄ニュースリリースから抜粋  
京都本線 正雀駅～南茨木駅間の新駅が「摂津市」駅に決定  
～同駅を日本初の『カーボン・ニュートラル・ステーション』に～



**雨水利用**  
ホーム上屋に降る雨水を貯留し、トイレ洗浄水や緑地散水に利用。  
水道使用によるCO<sub>2</sub>排出を削減

**太陽光発電**  
太陽光の自然エネルギーを、駅で利用する空調・照明・駅務機器などに供給。  
電気使用によるCO<sub>2</sub>排出を削減

**ヒートポンプ式電気給湯器**  
駅務室等で使用する給湯器に、ヒートポンプ方式による省エネ型機器を採用。  
電気使用によるCO<sub>2</sub>排出を削減



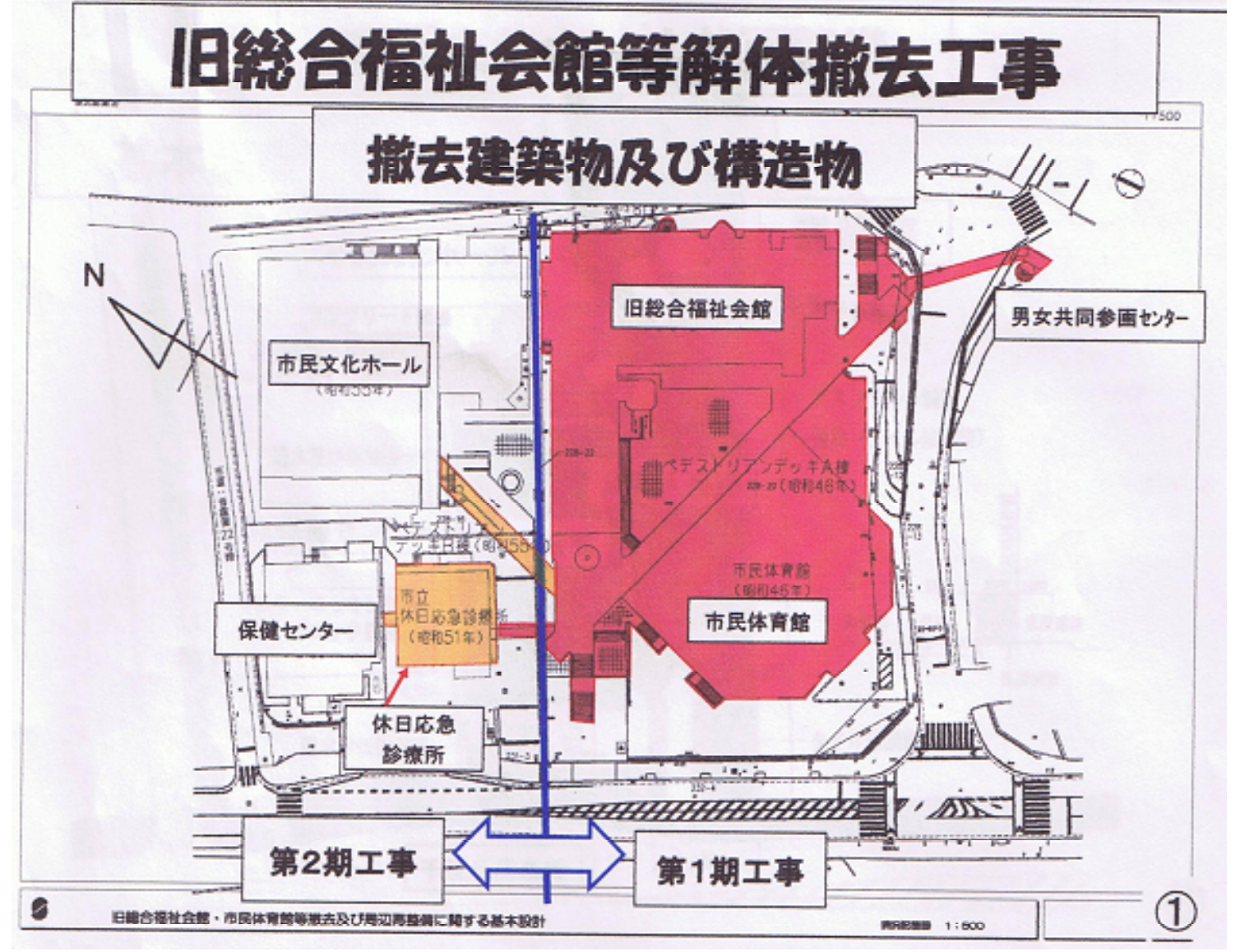
**無水トイレ**  
男性トイレに、洗浄時に水を使用しない無水式小便器を導入。  
水道使用によるCO<sub>2</sub>排出を削減

**エレベーター回生電力利用**  
エレベーターのブレーキ時に発生する回生電力を蓄電し、力行時に使用するシステム。  
電気使用によるCO<sub>2</sub>排出を削減

**緑化推進**  
壁面緑化等の緑化施策を推進し、必要緑化面積の約2倍の植栽を実施。  
樹木によるCO<sub>2</sub>吸収を実現

**LED照明**  
駅の照明にLEDを使用し、消費電力の低減を実現。  
電気使用によるCO<sub>2</sub>排出を削減

先日、駅前再開発特別委員会で旧総合福祉会館の解体撤去工事について説明がありました。市の公共事業として解体するわけですが、旧総合福祉会館は市制施工5周年を記念して昭和46年12月に設立されました。現在問題になっているアスベストが大量に使用され、**アスベスト処理作業レベル1**による解体撤去作業になります。業者の方はもちろん、住民の皆様にもきっちり説明して頂き、アスベストの恐ろしさを十分理解した上で、慎重な工事を行って頂き、又、工事期間中子どもたちの安全を考慮し、通学路の変更もふまえて施工して頂きたいと思います。アスベストの潜伏期間は20年～40年、もし、子どもたちに被害が及んだら働き盛りの年代に発症ということにもなりかねません。工事の反対ではなく、十分注意して解体作業を行って頂きたいと思います。



**アスベストの処理のレベルは3段階に分かれています。今回の工事は作業レベル1とされ非常に**  
**嚴重な防止対策が必要です。**

**アスベスト処理 - 作業レベル 1**  
著しく発じん量が多い作業で、作業場所の隔離や高濃度の粉じん量に対応した防じんマスク、保護衣を適切に使用するなど、嚴重なばく露防止対策が必要なレベル

**アスベスト処理 - 作業レベル 2**  
比重が低く、発じんしやすい製品の除去作業であり、レベル1に準じた高いばく露防止策が必要なレベル

**アスベスト処理 - 作業レベル 3**  
発じん性が比較的低い作業で、破碎、切断等の作業においては発じんを伴うため、湿式作業を原則とし、発じんレベルに応じた防じんマスクを必要とするレベル